あったか民泊体験

～グリーン・ツーリズムのススメ～

グリーン・ツーリズムとは

グリーン・ツーリズムとは、都市に住む人などが、農山漁村などに滞在し、農林漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ旅行のことです。長期バカンスを楽しむことの多いヨーロッパで普及した旅のスタイルで、日本でも最近「新しい旅のカタチ」として関心を集め、農山漁村と都市との交流目的としたグリーン・ツーリズムが全国各地で行われるようになってきています。

これまでの修学旅行は、施設などを見学する「見る」修学旅行が主流でしたが、近年、都市部の学校では「見る」だけではなく、教育効果も大変高く、現地でなければ出来ないことを求めて、農山漁村で「体験する」修学旅行を計画する学校が増えてきました。

グリーン・ツーリズムのきっかけ

スローライフやスローフードのようなゆとりのある生活に10年ほど前から注目が集まるようになり、その頃から南薩地域でもグリーン・ツーリズムの受け入れが始まるようになりました。

また、本市においては、本市の恵まれた自然環境や農林水産資源、歴史や伝統文化を生かした特色ある体験型余暇活動を創出し、都市との交流を図り、地域コミュニティの活性化を目指し、平成20年12月に「枕崎市グリーン・ツーリズム協議会」が発足しました。現在、23世帯が受入家庭として登録しており、平成27年度は、11校の受入れを予定しています。

グリーン・ツーリズムで地域活性化

県内のほぼ全域をエリアとする民泊型教育旅行の受入事務局である、南さつま市のNPO法人エコ・リンク・アソシエーション代表理事の下津公一郎さんにお話を伺いました。

「修学旅行で来た子どもたちが、数年後にまた訪れてきてくれる。故郷に帰るような感じで。そういう暖かさも魅力の一つですよね。グリーン・ツーリズムは何か投資が必要となるものではないし、普段の生活の延長でできるわけです。『こんなもんでいいの』と聞く人もいますが、それがいいんですよ」と話す下津さん。

下津さんが、グリーン・ツーリズムの受入事業を始めて約13年。現在では県内全域で約3万人の受入れができるほどに広がっているそうです。

しかし、九州新幹線の開通を機に、関西圏の学校を中心に民泊型教育旅行の需要が増えたことで九州全県で受入れを行うようになり、競争も激化してきているそうです。「競争を勝ち抜くには『受入れの中身』と多くの人を受け入れる『体制づくり』が重要」とも話します。「グリーン・ツーリズムの中身が充実するということは、観光の充実にもつながってきますよね。体験を求めて観光に訪れる人も多くなってきていますから。グリーン・ツーリズムと観光で面白いことができれば最終的には地域活性化につながる。そのためにはいろんな人が集まって知恵を出し合うことが大事になってきますよね。だから部分的な参加でもいいから多くの人に関わってほしいです。また、広域で集まることで違う色が出て、さらに充実したものになると思います」と下津さんは話します。また、最近では民泊型教育旅行を扱う旅行代理店から「海体験」の要望もあり、受入体験の幅を徐々に広げているそうです。

下津さんは最後に「農業も海体験もできる枕崎にはまだまだ可能性がある。だから若い人たちにも集まってもらって、たくさんのものを作り上げていってほしいですね。そうしたらもっと活発になりますよね」と話し、枕崎に対する期待を寄せました。

NPO法人エコ・リンク・アソシエーション代表理事
下津 公一郎さん

受入家庭を随時募集

枕崎市グリーン・ツーリズム協議会では、中学、高校生の修学旅行体験学習を受け入れていただける家庭を募集しています。子どもたちと交流し、楽しい時間を過ごしたいという皆さん、ぜひご応募ください。

登録の条件

- 市内に在住の方
- 3人～4人の中学生・高校生を自宅へ泊められ、送迎ができる方
- ツーリズムに関心のある家庭など

受入家庭として登録した場合

- 受け入れた場合、登録規定により受入料を受け取ることができます。
- 研修会などを行い、ツーリズムの認識を深めます。

■問合せ・申込み

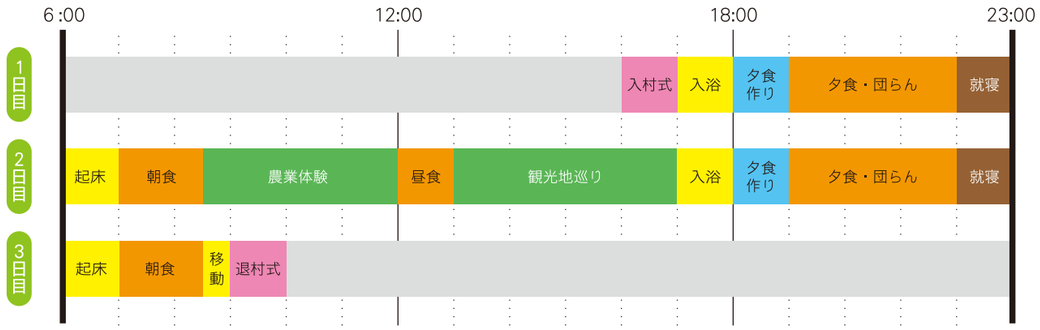
- 枕崎市グリーン・ツーリズム協議会（事務局＝農政課農政係）TEL72-1111（内線316）、同協議会長 山崎 TEL090-9651-6720
- NPO法人エコ・リンク・アソシエーション TEL53-7270

interview

松田悦雄さん(64)、**和枝**さん(60)

南さつま市で民泊の受入れをする和枝さんの友人の勧めで、平成23年より受入れを始める。後ろは、松田さんがこれまでに受入れた子どもたちとの写真やお礼の手紙など。

子どもたちの喜ぶ顔がうれしい

体験内容は受入家庭の自由なので、私たちの家では持っているみかん畑でみかんづくりに関する体験を主に行っています。大変なイメージがあるかもしれないですが、私たちは特別に何かをするのではなく、普段の生活の延長上で受入れをしています。食事も普段通りの食事を子どもたちと一緒に楽しみながら作っています。刺身やカツオのタタキは特に喜ばれます。「こんな簡単な体験でよかったのかな」と思うことがありますけど、後から送られてくるお礼状を見ると、自分たちが思っていた以上に喜んでくれていて、帰ってから家で話をしてくれてるんでしょうか、保護者の方からもお礼の手紙をいただくことがあります。本当にうれしいし、やりがいを感じます。やってみないとわからないことなので、ぜひ一度体験してほしいです。分からないことがあったら私たちにもぜひ聞いてください。（TEL72-5860）

松田さんの受入れの例（２泊３日）